



大谷大学の前身である真宗大谷大学が現在の地に移転したのは大正2年(1913)のことでした。  
 当時、田園風景が広がっていた小山の地に赤レンガ造りの本館(現・尋源館)をはじめとする学舎が建てられ、  
 仏教を中心とする人文諸学の研究・教育がおこなわれてきました。  
 赤レンガの学舎では、近代的な仏教学研究の道を開いた南条文雄や佐々木月樵、  
 世界に禅と仏教の精神を伝えた鈴木大拙、  
 真宗学を確立して宗教・思想界に大きな影響を与えた曾我量深・金子大栄、  
 さらに嘱託教授たちも学界の錚々たる研究者が教鞭をとり、  
 若き学徒を育成するとともに、世界に仏教の教えを伝え広めること、  
 すなわち「仏教を解放」する役割を果たしてきたのです。  
 本展覧会では、赤レンガの学舎がこの地に開校された歴史と、  
 大谷大学の源にある建学の精神、学舎を中心に受け継がれてきた学の伝統を紹介いたします。



大正2年 真宗大谷大学全景

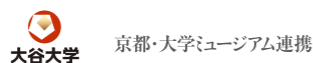


(作品27)



(作品20)

- 地下鉄烏丸線「北大路」下車、6番出口すぐ
- 市バス「北大路バスターミナル」、「下総町」、「烏丸北大路」下車
- 駐車場はございませんので、お車のご来館はご遠慮ください。ただし身障者の車の場合は事前にご連絡ください。



次回の展覧会 2024年度夏季企画展 教科書の素材 2024年6月4日(火)～8月3日(土) [予定]

大谷大学博物館 〒603-8143 京都市北区小山上総町 響流館1F Tel.075-411-8483 Fax.075-411-8146  
[https://www.otani.ac.jp/kyo\\_kikan/museum/](https://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/)



Free admission  
**観覧料  
 無料**

History of Otani University  
 2024年度春季企画展  
**大谷大学のあゆみ**  
**赤レンガの学舎**  
 2024年4月1日[月]—5月11日[土]  
 [開館時間]10時～17時(入館は16時30分まで)  
 [休館日]日・月曜・祝日(ただし、4月1日(月)、29日月(祝)は開館)  
 [主催]大谷大学 [後援]エフエム京都



## 1章 学舎のすがた

### 1 真宗大谷大学建築平面図1/300

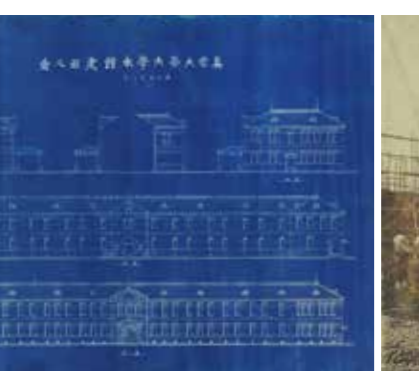
1枚 紙本印刷 大正1年(1912) 大谷大学博物館蔵

明治44年(1911)、東京から京都へ戻った真宗大<sup>しんしゅうだい</sup>学は、伝統的教学研究を継続していた高倉<sup>たかくら</sup>大学<sup>だいがく</sup>寮と合流し、真宗大谷大学と称した。そしてその2年後には、現在の地に移転することとなった。本図面は、新たな大学全体の建築平面図である。

### 2 真宗大谷大学本館建面之図

1枚 紙本印刷 大正1年(1912) 大谷大学博物館蔵

現在も大谷大学を象徴する建物として残る本館(現尋源館)の立面図。ルネサンス様式を基調とする建物で、大正期洋風建築の最古例の一つとして、国の登録有形文化財にも登録されている。



(作品2)

### 3 本館屋上塔二十分一之図

1枚 紙本印刷 大正1年(1912) 大谷大学博物館蔵

本館(現尋源館)のシンボルである屋上<sup>せんとう</sup>尖塔<sup>せんとう</sup>の設計図。「ランタン」<sup>ちやうとう</sup>なども呼ばれ、真理の灯、学びの尊さを象徴するものではないかと近年の研究などで考えられるようになっている。

### 4 本館上棟式写真

1葉 モノクロ写真 大正2年(1913) 大谷大学真宗総合研究所大学史資料室蔵

大正2年6月3日の本館上棟式の写真。施工は京都の大工・尾瀧菊太郎。尾瀧は本館施工前、同様の建築である同志社大学彰栄館(重要文化財)も施工した。



(作品4)

### 5 講堂之図

1枚 紙本印刷 大正1年(1912) 大谷大学博物館蔵

現在はない旧講堂の設計図。右上の平面図には「仏壇」と記されており、現在の講堂や尋源講堂などとおなじく、御内仏が安置されていた。

### 6 講堂工事写真

1葉 モノクロ写真 大正2年(1913) 大谷大学真宗総合研究所大学史資料室蔵

旧講堂の建築風景写真。大正2年4月4日に撮影されたもの。足場の前には沢山の煉瓦が積み重ねられており、外壁工事に入る前の様子であることがわかる。



(作品6)

### 7 貴賓室・閲覧室・閲覧事務室図面

1枚 紙本印刷 大正1年(1912) 大谷大学真宗総合研究所大学史資料室蔵

閲覧室(図書館)などの図面。1階に閲覧事務室と閲覧室、そして2階に教員閲覧室と貴賓室を備える2階建ての建物であったことがわかる。

### 8 閲覧室工事写真

1葉 モノクロ写真 大正2年(1913) 大谷大学真宗総合研究所大学史資料室蔵

大正2年4月4日に撮影された図書館(閲覧室)の工事写真。書庫に収蔵された江戸時代の学寮以来の貴重な書物は、大谷大学の学問・研究を今日まで支えている。

### 9 寄宿舎建図

1枚 紙本印刷 大正1年(1912) 大谷大学博物館蔵

新たな大学には、学生たちが住み込みで学ぶことができるように、寄宿舎も設置された。

### 10 食堂附属炊事場等之図

1枚 紙本印刷 大正1年(1912) 大谷大学博物館蔵

寄宿舎の北側に設置された食堂および炊事場の設計図。

### 11 尋源橋之図

1枚 紙本印刷 大正1年(1912) 大谷大学博物館蔵

旧大学正門の南に流れる琵琶湖疎水に架けられた橋「尋源橋」の設計図。

### 12 知進守退碑拓本

1幅 紙本墨拓 昭和時代(20世紀) 大谷大学博物館蔵

東京巢鴨に真宗大学が開校した記念に建立された石碑の拓本。碑は現在も正門内北側に建つ。5〜6世紀にかけて活躍した中国浄土教の僧・曇鸞の『浄土論註』にある言葉で、仏道から退転せず歩みを進めていく智の大切さを意味している。

### 13 工事入札者心得ならびに仕様書

1綴 紙本墨書 大正1年(1912) 大谷大学博物館蔵

食堂や炊事場、寄宿舎などの新築にあたって定められた入札業者向けの心得書と仕様書。

### 14 落成・移転式案内葉書ならびに式次第

2点 紙本印刷・墨書 大正2年(1913) 大谷大学真宗総合研究所大学史資料室蔵

大正2年11月9日に新築・移転を記念して新校舍講堂においておこなわれた式典の案内状と式次第書。

### 15 真宗大谷大学一覽

1冊 紙本印刷 大正2年(1913) 大谷大学図書館蔵

大正2年(1913)11月9日に举行された落成・移転式において配布されたもので、大学の沿革などが記される。

### 16 棟札

1面 板地墨書 大正13年(1924) 大谷大学博物館蔵

大正13年に増設された事務室のもの。棟梁として名が記される杉岡利平は、東本願寺の明治再建において菊門の肝煎大工をつとめた。

### 参考 大谷大学建築平面図

1枚 紙本印刷 昭和10年(1935) 大谷大学博物館蔵

昭和10年、図書館の書庫や研究室新築工事にあたって制作された設計図類の内の一つ。



## 2章 学の系譜と「樹立の精神」

### 17 碩果航西詩帖

1帖 紙本墨書 大正10年(1921) 大谷大学博物館蔵

第2代学長で仏教学者の南条文雄(1849～1927)は、東本願寺の留学生として渡英し、オックスフォード大学などでサンスクリット語(梵語)原典に基づく近代的仏教研究の重要性を学んだ。本品は、渡英の船中で南条が詠んだ詩文を南条自身が編んだもの。

### 18 南条文雄・笠原研寿書簡

1巻 紙本墨書 明治9年(1876) 大谷大学博物館蔵

南条文雄は明治9年、東本願寺の留学生として同僚の笠原研寿(1852～1883)とともに渡英。オックスフォード大学のインド学研究者マックス＝ミュラー(1823～1900)にサンスクリット文献学を学び、日本における近代的仏教研究の基礎を築いた。本品は明治9年7月8日、スリランカに到着した際の現地の様子を東本願寺に報告したもの。

### 19 称友尊者阿毘達磨俱舍論註梵文

1冊 紙本インク書 明治14年(1881) 大谷大学博物館蔵

笠原研寿が、オックスフォードで謄写した称友尊者(Yaśomitra)の『阿毘達磨俱舍論註』。笠原はマックス＝ミュラーの好意によって、パリの国立図書館より借用した写本を3～4ヶ月という短期間で全文を謄写した。

### 20 梵文入楞伽經

1冊 紙本インク書 明治15年(1882)～16年(1883) 大谷大学博物館蔵

南条文雄がイギリス留学中、ロンドンアジア学会所蔵の写本を謄写したサンスクリット語(梵文)の『入楞伽経』(Lannkāvatāra Sūtra)。中期大乘仏教経典の一つで、ランカー島(セイロン島)を訪れた釈尊がラーヴァナ(インドの魔王の一人)に教えを説くという内容。

### 21 デーヴァナーガリー文字活字母型

1式 鑄造 大正8年(1919) 大谷大学博物館蔵

南条文雄の古稀記念出版『梵文入楞伽経』出版のために鑄造されたデーヴァナーガリー文字の活字母型。デーヴァナーガリー文字はインドの文字で、古典語であるサンスクリットの表記などに用いられるもので、神聖なる都市の文字という意味を持っている。

### 22 南条文雄書簡

1幅 紙本墨書 大正15年(1926) 大谷大学博物館蔵

本品はサンスクリット文献の邦訳に共に取り組んだ泉芳環(1884～1947)に南条文雄が送った手紙で、追伸部分に『入楞伽経』邦訳の校正を案じる思いが記されている。

### 23 真宗大谷大学最後の卒業写真

1葉 モノクロ写真 大正12年(1923) 大谷大学真宗総合研究所大学史資料室蔵

真宗大谷大学は大正11年(1922)に大学令に定める大学(旧制大学)として文部省の認可を受け、大谷大学となった。本品は真宗大谷大学最後の卒業写真である。

### 24 大谷大学樹立の精神

1冊 紙本インク書 大正14年(1925) 大谷大学博物館蔵

大正13年(1924)に第3代学長となった仏教学者の佐々木月樵(1875～1926)は、翌14年に举行された入学宣誓式において「大谷大学樹立の精神」を訓辞し、本学の目的を仏教の学界および世界への解放にあると宣言した。本品は佐々木月樵自筆の草稿。

### 25 撰大乘論の対訳研究

1冊 紙本インク書 大正時代(20世紀) 大谷大学博物館蔵

佐々木月樵は大乗仏教経典諸本の比較対照をおこなった。本書はインドの仏教者無著(Asaṅga)が著した唯識論書『撰大乘論』の対訳研究の原稿。佐々木没後の昭和6年(1931)に刊行され、『撰大乘論』研究の必須のテキストとなった。

### 26 佐々木月樵墨跡

1幅 紙本墨書 大正時代(20世紀) 大谷大学博物館蔵

佐々木月樵の揮毫した墨跡。「仏に従ひて、追遙して自然に帰す」の文は、中国唐代の浄土教僧である善導の著作『法事讃』の一句。

### 27 北京版チベット大蔵経

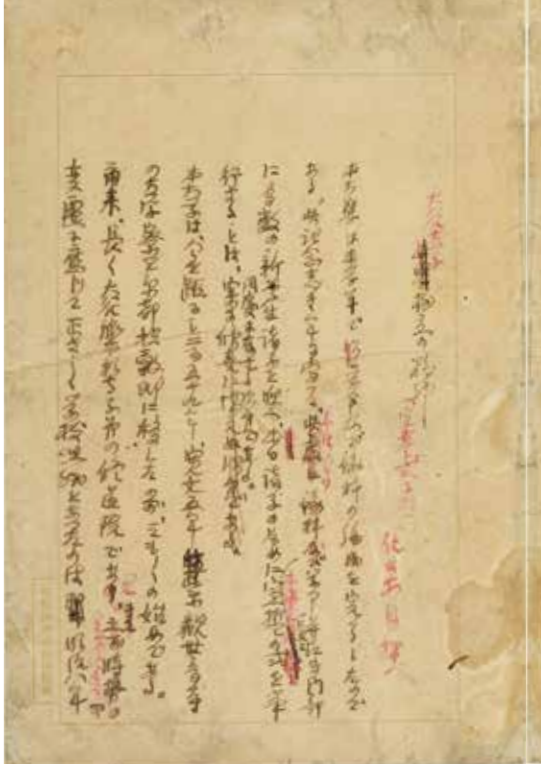
1策(359策のうち) 紙本木版 中国・清時代(18世紀) 大谷大学博物館蔵

チベットで訳された仏典の集成である大蔵経。清代の中国北京で出版されたもの。本品は寺本婉雅(1872～1940)が初めて日本にもたらしたもので、ほぼ完全形で残されているものは世界でも少なく非常に貴重な史料である。寺本は真宗大谷大学でチベット語を教授した。

### 28 救済と自証

1冊 紙本印刷 大正11年(1922) 大谷大学図書館蔵

明治から昭和にかけて活躍した仏教思想家であり、真宗大谷派の学僧である曾我量深(1875～1971)の著書。曾我は東京の真宗大学で学んだ後、清沢満之の私塾浩々洞に加わり、真宗大学教授となった。京都移転に反対して辞職した後も研鑽を重ね、東洋大学教授、大谷大学教授などを歴任した。大谷大学教授時代にも主張が異安心であると批判されて辞職するなどしたが、自説を堅持し、後には学長も務めた。



(作品24)
大谷大学樹立の精神
宣誓式に於て 佐々木月樵
本大学は本年年で以て学部及び予科の編成を完了したのである。此記念すべき年に當つて予は今日予科 学部并に内部ノに多数の新学生諸子を迎へ、本日諸子の爲めに本講堂に於て 宣誓の式を挙／＼行することゝす。同慶に存ずる次第である。／＼本大学は、今を距ること二百五十九年、寛文五年筑紫觀世音寺ノの大學侶うを京都積殻邸に移したのが、そもゝの始めである。／＼爾來、長く大谷派本願寺子弟の修道院であつた、今この修道院が時勢ノ變遷に応じて正しく学校組織となつたのは明治八年

### 29 如来表現の範疇としての三心観

1冊 紙本印刷 大正13年(1924) 大谷大学図書館蔵
曾我量深が異安心であるとされる原因の一つとなった著作。本願寺派の教学研究所主催の講座での講演録であるが、そこでの主張が異端視されたという。

### 30 真宗学序説

1冊 紙本印刷 大正12年(1923) 大谷大学図書館蔵

大谷大学において近代的な「真宗学」を打ち立てた金子大栄(1881～1976)の著作。真宗大学で清沢から教えを受けた金子は、それまでの伝統的な宗学ではない新たな「真宗学」の基礎をつくった。

### 31 浄土の観念

1冊 紙本印刷 大正14年(1925) 大谷大学図書館蔵
金子大栄も異安心問題によって一度辞職することとなった。その原因となった主張がなされている書である。曾我・金子は佐々木月樵が招いた人物であり、仏教の解放を掲げた佐々木とともに新たな学問を目指していた。異安心事件は古い学問と新しい学問との間で起こった事件であった。

### 32 The Eastern Buddhist 創刊号

1冊 紙本印刷 大正10年(1921) 大谷大学図書館蔵
新たな学問、新たな大学を目指した佐々木月樵が、世界的な仏教学者である鈴木大拙(1870～1966)を大谷大学に招いたのは大正10年。本書は、鈴木らが仏教学を世界に発信するために創設した東方仏教徒協会の学術雑誌“The Eastern Buddhist”の創刊号である。